

ワケ カタチには理由がある(104)

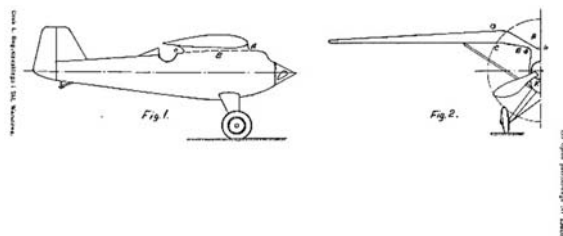
Shape follows Function
& Taste

~PZL P.11c 戦闘機



←ワフスキが最初に設計した P.1 試作機と

ポーランド特許 13626 号 (ガル翼・1929 年の出願)
/図面は P.1 試作機そのもの。↓



本機 PZL P.11 c は第二次世界大戦の極初期に使用されたポーランドの、ガル翼を特徴とする主力戦闘機です。設計者ジグムント・プワフスキ(Zygmunt Puławski)は母国で特許を取得し、P.1 試作機以来、その形状はポーランドを代表する形式となりました。

彼は、フランスのブレゲー社で研修生となった後、本国に戻って精力的に飛行機を設計しますが、残念ながら 1931 年という早い時期に事故死してしまいます。しかし、彼が残した P.7 と P.11 c 戦闘機は、侵攻してきたドイツ空軍を迎え撃ち、歴史に名を残します。この機体は 1970 年代にリリースされていた、レベルの 1/72 ファイターシリーズ二十数種類の内の 1 機として模型化され、小学生だった当時、なぜこんな古めかしい固定脚の機体選ばれたのだろうと不思議に思いましたが、歴史を知ると納得の選択でした。なお、オフセットされた主翼の国籍マークは、敵機から照準されたときの射線ずらしのためと考えられます。

【模型について】

レベル 1/72 の P.11c 模型の箱絵→



ポーランドの ARMA Hobby 製 1/72 のインジェクションキットです。近年リリースされたキットで自国の機体ということもあってとてもよくできています。なお、P.1 は SBS model のレジンキットで、こちらも高品質なキットでした。
(中川裕幸 2024 年 5 月)